三原市歴史民俗資料館

蔵出しお宝ニュース

— 第 17 号 —

三原市歴史民俗資料館では，所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。

本紙では，資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と，行事の案内・紹介などを随時行って参りたいと思っております。

「端午の節句展」はじまる

４月 17 日（水）から５月８日（水）まで資料館１階ロビーにて「端午の節句展」が始まりました。今回の企画展のメイン資料は平成９（1997）年の大河ドラマ「毛利元就」で，小早川隆景をイメージして製作・使用された甲冑です。小早川隆景役は恵俊彰さんでした。仕立ても色々縅で，上品さの中に華やかさが感じられます。前立は瀬戸内の水軍を統率した隆景のイメージで，熊手が付けられています。現代の甲冑師が古式通りに拵えたものですので見ごたえがあります。

その他２領甲冑を展示していますが，江戸時代のものと，隆景の甲冑同様，現代の甲冑師が仕立てたものを展示しています。この２領は，三原の歴史文化を保存・継承している三原二之丸会の所蔵で，三原浮城まつりなどで実際に着用しておられるものです。

また，江戸時代末期から大正時代頃まで製作され，初節句の家に子どもの健やかな成長を祈念して贈られた三原人形や，三原市田野浦にある雙照院14 世住職であった村上一笑のでんでん太鼓自画賛なども展示しております。ぜひ資料館で薫風を感じてください。

なお，４月 29 日（月）・５月３日（金）～５日（日）は休館日です。ご了承ください。

（上）小早川隆景をイメージして
　　製作された甲冑
（下）展示風景

「ミニ展示 さまざまな陣笠」も開催中！

端午の節句展と平行して，４月 17 日（水）から５月 26 日（日）まで三原市立中央図書館２階展示ケースで「ミニ展示 さまざまな陣笠」も開催しています。戦国時代から明治初年にかけて，現在の帽子やヘルメットの役割を果たしていたものに陣笠があります。材質もさまざまで，材質は紙・革・木・鉄が多く使われており，所有者の個性が感じられます。形も足軽笠・平笠・吹き上げ笠が一般的で，珍しいものでは持ち主の個性を表現した，変わり陣笠と呼ばれるものもあります。

現在大河ドラマで『八重の桜』が放映されていますが，参勤交代や合戦の場面の小道具で陣笠が登場します。本展示の中でも，『八重の桜』と関係深い戊辰戦争で実際に使用されたと思われる陣笠も展示しております。当時の人々が生活の中に取り入れた“美”を感じていただければ幸いです。

（左上）五つ銀杏紋　足軽笠　（安土・桃山時代）
（上）　右三つ巴紋　平笠　（江戸時代）
（下）　丸に上がり藤紋　吹き上げ笠　（複製）

置　序　春　秋

掛物　池田　寒山　筆
毛利元就　三矢の教えの図（昭和時代）

村上　一笑　筆
でんでん太鼓　自画賛〔大正６（1917）年〕

節句飾り用　甲冑（明治時代）

発行　平成 25（2013）年　４月 19 日
〒723-0015　三原市円一町２丁目３－２
三原市歴史民俗資料館
TEL 0848－62－5595
※本冊子に掲載の写真などは，許可なく転用なさらないようにお願い申し上げます。